

# 金谷川キャンパス生物多様性保全・活用研究所

## 活動報告書

所長 藤野 正也

### ○研究目的

福島大学金谷川キャンパスは里山的環境にキャンパスを設置したことから生物多様性が高く、貴重な種を含む多くの生物が生息している。このキャンパスの生物多様性を維持し、教育活動や研究活動に活用するため、以下に掲げる調査、研究、実践を行う。

1. 金谷川キャンパスの生物多様性の調査を行う
2. 金谷川キャンパスの生物多様性を活かした教育プログラムを開発する
3. 金谷川キャンパスの生物多様性を活かした研究活動を推進する
4. 金谷川キャンパスの生物多様性を学内外に発信する

そして、これらの活動を元に、金谷川キャンパスを環境省が推進している自然共生サイトおよび、民間で生物多様性保全を行う場所（OECM）としての国際データベースへの登録を目指す。また、そのための事務連絡調整を行う。

### ○研究メンバー

<研究代表者（研究所長）>

食農学類 藤野正也

<研究分担者（プロジェクト研究員）>

食農学類 神宮宇寛

食農学類 望月翔太

食農学類 福島慶太郎

共生システム理工学類 黒沢高秀

共生システム理工学類 塘 忠顕

<連携研究者（プロジェクト客員研究員）>

食農学類 石井秀樹

環境放射能研究所 石庭寛子

### ○研究活動内容

#### 1. キャンパス自然観察会の開催

① 学生、教職員を対象として、キャンパス内のサクラ類を中心とした自然観察会を開催した。27名が参加した。

開催日 2024年4月16日



② オープンキャンパスの来場者を対象として、キャンパス内の自然観察会を開催した。M4教室を出発し、S棟のツバメの巣2カ所、学生会館のスズメの巣1カ所、学生会館横のケヤキ、カツラを観察し、信陵公園に移動した。駐輪場横あたりでクズとセイタカアワダチソウの防除を体験してもらい、ヤマユリ、ニホンカナヘビ、ヤマハギ、コナラ、ホオノキを紹介した。生徒12名、保護者6名、その他1名、計19名が参加した。

開催日 2024年7月13日



## 2. 保護活動

S 講義棟の出入りにツバメが巣を作ったため、6月14日に注意喚起の看板を設置するとともに、落ちてきた糞を受け取る箱を設置した。



藤野正也, 小山航平. (2024). 大学キャンパスの OECM 登録に向けた課題の検討—福島大学金谷川キャンパスを事例として—. 日本森林学会誌, 106(3), 68-74.

## 5. 自然共生サイトへの申請準備

書類を作成し申請準備を進め、2025年4月に申請手続きができる状態に至った。

## 3. 広報活動

2025年3月11日に、金谷川キャンパスの自然と歴史を紹介する看板を学内に設置した。看板ではキャンパス内の生物多様性やキャンパスを利用した研究を紹介するほか、キャンパスに鎮座する「はっつけ地蔵」の紹介や、大学周辺の古道を紹介した。また、3月28日付けで大学よりプレスリリースを行った。



## 4. 研究論文の公表

金谷川キャンパスの生物多様性保全制度について分析した論文「大学キャンパスの OECM 登録に向けた課題の検討—福島大学金谷川キャンパスを事例として—」を日本森林学会誌にて公表した。

書誌情報